Jaoニュース

４０９号　２０２５年１２月

発　行　じゃおクラブ
責任者　大澤　輝之
編　集　事務局
URL　https://jaoclub.com

事務局だより

会員数（2025 年 11 月 1 日現在）

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
36	31	28	28	123 名（E グループ会員：113 名）

入会　２名　藤井 恒男氏、白鷹 増男氏（県央）
退会　１名　小泉 一雄氏（湘南）

次回の運営委員会と HP サークル

運営委員会　　日時：2026 年 1 月 18 日（日）10:00～12:00　オンライン開催
議長：坂井委員　　書記：高橋委員

HP サークル　　日時：2025 年 12 月 14 日（日）15:30～17:00　オンライン開催　議長：竹内委員

じゃおニュースはホームページからサークルスクエアへ移転します

じゃおクラブ運営委員会

11 月 16 日の運営委員会にて、「じゃおニュース」は、2026 年 4 月を目標に掲載をホームページからサークルスクエアへと移転することを基本方針として決定しました。今後、HP サークルの協力もいただき、具体的実施計画の検討を進めることになりますが、会員の皆様がじゃおクラブの活動などの情報を漏れなく共有することを、常に念頭に置いて進めたいと思います。移転スケジュールについても、実施計画の進捗状況によって、目標に拘らず柔軟に対応したいと考えております。

以下に今回の決定に至るまでの考え方をご説明します。

1.　会員同士の心の距離を縮め、関係維持の仕組みになる

近年「じゃおニュース」の主な役割は会員間の情報共有でした。サークルスクエアへの移転によって、地域の活動報告や会員の近況を簡単・気軽に投稿できる仕組みにすることを目指します。

人は、顔を合わせることができなかったとしても、互いの近況を知ることが、つながりの維持やクラブへの参加意欲に結びつくと言われています。じゃおニュースは「情報共有」を超え「会員間のつながり維持の仕組み」を目指します。

2.　皆さんが安心して気楽に投稿できるようにする

ホームページ掲載の「じゃおニュース」は、検索などから閲覧できます。このため、個人名や顔写真が思わぬ形で知られてしまうリスクがあります。サークルスクエア移転後は、会員のみが閲覧可能になり、外部からの閲覧・引用・無断転載などの懸念が消滅します。同時に、会員以外に知られたくない情報（活動予定、会員動向、会員氏名などの個人情報など）も安全に共有できます。これにより、投稿の安心・安全が保障されます。

さらに、

・著作権や肖像権への過剰な配慮が不要になる。
・気取らない、日常生活や活動の素朴な報告も投稿できる。

というメリットが生まれます。メリットを生かし、誰もが発信できるようにしたいと考えています。近年、投稿が減少気味ですが、これが投稿を増やす第一歩になればと考えています。

高齢化が進み、会員の平均年齢が 78 歳に達する中、持病や介護などで活動への参加が限定される会員が増えています。参加が限られていたとしても、会員一人ひとりが互いのつながりを保つことができるようにしたいと考えています。サークルスクエアへの移転によって「じゃおニュース」を将来に向けた情報共有の手段として活用します。

なお、冒頭申し上げましたように、日頃パソコンを常用されないため、サークルスクエアをご覧になれない会員の皆様にも別の媒体によって情報を共有できるようにすることを重点的に考えますが、スマホをご利用されている方は、スマホでもサークルスクエアをご覧になれます。この具体的方法の啓蒙も今後の検討計画に盛り込みます。

具体的な移転計画は、今後の検討となりますが、まずは大方針を決定いたしましたので、誌面を借りて、ご報告させていただきます。会員の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。（文責：大澤　輝之）

【サンプル掲載中！】「じゃおニュース」サークルスクエア版

「じゃおニュース」サークルスクエア版のイメージをお伝えするため、2025 年 4 月以降の「じゃおニュース」をサンプルとして掲載しています。以下の URL からご覧いただけます。

https://www.c-sqr.net/reports

※　閲覧にはサークルスクエアのアカウント名とパスワードでのログインが必要です。

サークルスクエア版の便利な使い方

サークルスクエア版は、パソコンでもスマホでも読むことができます。記事は一つずつ独立して表示され、希望する記事をすぐに読むことができます。

- サークルスクエア版を開くと、上部に 全カテゴリ と表示された薄緑のボタンがあります。
- ボタンをクリックして、分類より「今月の新着」を選ぶと、当月掲載の記事に絞ることができます。

会員だより

長後天満宮の藤沢市指定有形文化財

湘南　桧垣　邦夫

過去何度か私が在住している藤沢市長後の文化財を紹介しましたが、その中から二つ程もう一寸詳細にご案内します。

小田急江ノ島線長後駅西口から高座渋谷方面に徒歩 12 分程行くと住宅街に有る長後天満宮に着きます。この天満宮は鳥羽帝永久三年（1116 年）澁谷重國の祖父、秩父六郎基家が此の地に築城して城内に廟を建久し、祭神菅原道真公を崇拝して天満宮と称したと由緒板に有ります。この長後天満宮には二つの有形文化財が有ります。

一つ目、石造狛犬

参道に続く階段には勇猛な狛犬が出迎えてくれます。一ノ鳥居・二ノ鳥居と抜けて行くと本殿前にも小型の子狛犬一対が現れます。更に本殿横に貞享三年（1686 年）奉納の石造狛犬一対の説明が有り、普段は見れないが、阿吽の 2 体には中村氏の女支むら・おち世の銘が刻まれていると説明に有ります。一般には男子氏子・講中などの奉納が多いなかで注目すべきもので、両の手に乗る程の小型です。

「阿吽」と言う言葉の由来はサンスクリット語です。サンスクリット語は、古代のインド発祥で、中国から仏教とともに日本に伝わった古代語です。サンスクリット語は、「阿」が最初の 1 文字目、「吽」が最後の 1 文字であったことから、「阿」は物事の始まり、「吽」は終わりを表しています。又、一対のものが持つ相対的関係性を指す言葉です。「阿吽の呼吸」は良く聞く言葉です。

石造狛犬一対の実物は本殿の裏手に祀られ正月三が日・九月二十五日の例大祭の時期に見ることができます。

二つ目、石灯籠

江戸時代を通して此の地を治めていた旗本朝岡氏の祖、朝岡丑之助が、寛永十九年（1642 年）に当村の総鎮守である天満宮に寄進した石灯籠です。朝岡氏は徳川家三河以来の家臣で、天正八年（1590 年）徳川家康の関東入国の後、此の下長後（二百石）を知行地として賜り、幕末まで代々これを受け継ぎました。

石灯籠は宝珠から竿石、基礎石まで完全な奉納当時の姿を保っております。石灯籠は夜には火袋に明かりを灯し照明器具として、幻想的な演出を醸し出します。

皆さんのお住いの周りにも結構文化財、遺跡などが有るものです。楽しみながら探求してみては如何ですか。

我が阪神タイガース

湘南　廣﨑　龍哉

私は、広島県呉市で小学校、中学校、高等学校に通いました。10 歳の頃からプロ野球に興味を覚え、阪神タイガースのファンになりました。

当時タイガースには、呉市出身の藤村冨美男という四番バッターがいて、物干し竿と言われる通常より長いバットを振り回し、ホームランを量産していました。多い年には 47 本も打ちました。その弟に、藤村隆男という投手がいました。タイガースのエースで 27 勝した年もありました。

タイガースの当時のクリーンアップは、三番 別当薫、四番 藤村冨美男、五番 土井垣武でした。呉市の二河球場で開幕前の三月に、チームのメンバーが揃って合同練習をしているのをよく見に行きました。懐かしく思い出します。

阪神タイガースの主戦投手に村山実がいました。闘志むき出しのザトペック投法で戦後唯一の 1 点台を切る防御率（0.98）を達成しました。1959 年 3 月 2 日のオープン戦（巨人戦）に初先発をはたす。当日はミスタータイガース藤村冨美男の引退試合でした。

開幕後の 4 月 14 日の国鉄戦（甲子園）では 2 安打完封勝利という華々しいデビューでした。最終的には、18 勝 10 敗、防御率 1.19 活躍でタイトルを獲得しました。1959 年 6 月 25 日の天覧試合で村山実は長嶋茂雄に無念極まりないサヨナラホームランを左翼ポール際に打たれました。大変悔しかったことを思い出します。

最近のタイガースは強いですね。今年の試合数は 143、戦績は 85 勝 54 敗 4 引き分けで優勝。2 位の DeNA を 13 ゲーム、3 位の巨人を 15 ゲーム引き離しました。打撃陣では打率 5 位の中野拓夢、6 位の近本光司、7 位の佐藤輝明と活躍しています。投手陣では防御率 1.55 の才木浩人、2.10 の岩崎優、2.12 の岩貞雄太と頼もしい限りです。

私のメールアドレスが、torakichi であるのは熱狂的な虎ファンであることによります。

移住の記－その 5

佐賀県小城（おぎ）市小城町　（県央）前田　康行

今年の夏は本当に暑かったですねえ。午前中だというのに、10 分ほど草取りしただけで汗だくになり、動悸、息切れに襲われ、危険極まりないものですから、外での作業がほとんどやれませんで、おかげで我が畑は雑草に覆われて見る影もない悲惨な状態になりました。10 月に入って気温が下がり、ようやく外での活動ができるようになってきて、11 月の今は畑の整備に追われています。そんななか、6 月頃植えたサツマイモやサトイモ、ショウガがなんとかそこそこ収穫できました。9 月に植えたジャガイモやニンニクも順調に育っています。野菜たちが雑草に負けずになんとか育ってくれてほっとしているところです。

収穫が終わったあとは玉ねぎなどを植えるため畝作り。佐賀市下水浄化センターでは、汚泥を発酵させて作った堆肥（有害物質分析済み）を安く販売（20 円/10 kg）しているので、それをしこたま仕入れ、さらにホームセンターで最も安価な発酵鶏糞を購入して、これらを畝に漉き込んでいます。また刈り取った雑草は十分乾燥させて土に戻すといった、こういった手間をかけて土作りに精を出しております。格好つけて、無農薬、無肥料で野菜作ってますって周りに吹聴している手前、なにかと手間がかかるのは仕方ないかと。

この地に移住し、家の目の前にある畑を見ながら、頭に思い浮かぶ野菜を手当たり次第に栽培してきて 3 年が過ぎました。最初の頃は、石ころだらけの畑を相手に、なんとかいい土にするべく奮闘しておりましたが、最近では、まあそんなに力まんでも、この畑でできる野菜を体力の許す範囲で作ればいいか、うまく栽培できないなら勉強してまたチャレンジするべ、と割り切るようになって、ずいぶん気楽に野菜作りができるようになりました。今でも葉っぱ物は虫に食われたりだとかでたいていはうまくいかず、なんとか採れるのは根ものが主体ですが、それでも、たくさん採れたら漬物（酢漬け、味噌漬け、ぬか漬け）にしたり乾燥したり室温あるいは冷凍保存して、日常の野菜はだいたい自給できています。

というわけで、野菜の自給はなんとかなりそうなんですが、実は最近、ライ麦粉を自給しようと考えているんですよ。神奈川にいた頃にライ麦パンが好きになりましてよく食べていたんですが、我が家近辺のお店にはライ麦パンがなくて。それで、こちらの中央公民館みたいな施設の調理室をお借りし、日頃パンを作ってるという女性に教わりながら自分でライ麦パンを作ったんですよ。これがまたびっくりの美味しさでしてね、まったくの初心者でもこんなにおいしいパンができるんだと驚き！ただ、ライ麦粉が見当たらなくてあちこち探し回り、やっと KALDI で見つけたんですが値段が高い。それだったら自分で作るかと思い立ったわけです。実は一昨年、近所の農家さんからライ麦の苗を 10 本ほどもらって少しづつ増やしていたんですよ。それが今年まあまあの量が採れましたので、今回はこれを手広く蒔こうと今準備中なんです。当初移り住んだ古い家を解体してできた空き地に蒔こうかと。ということで、準備作業を始めたのはいいんですが、まず穂から実を外す、つまり脱穀するのが大変でしてね、もちろん脱穀機なんて持ってませんから手作業です。去年は穂を手で揉んでの脱穀だったんですが、このやり方は量が少なかったからできたんで、今年は結構な量ですからこれでは埒が明かない。そこで、ネットで見つけた別の方法を採用してみました。まず袋と木の棒（ビールの空き瓶でも可だそうです）を用意します。袋に穂を入れて、棒でたたいて実をはずし（足で踏むのもありみたいです）、その後、目の粗いふるいにかけて実を採るという工程です。手で揉むよりも圧倒的に早いのに感動。家庭菜園程度の量ならこの方法で十分だと思われます。ただし、袋の網目に穂が引っかかって、脱穀が終わったあと袋から殻を取り出すのに手間取るのが欠点。網目のない、かつ頑丈な袋を探索中。

などなど、あーだこーだやりながら、おいしいパンを求めて作業に励んでおります。野菜のみならず、麦までも自給するという難儀なことを始めましたが、自分の食べるものを自給するというのは、田舎暮らしの楽しみの一つかなと思い始めた今日この頃であります。

未来の農業を先取り ― 玉川大学「植物工場」を訪ねて

多摩・田園　竹内　純一

11 月 8 日（土）に玉川大学の植物工場を見学しました。植物工場とは、光・温度・湿度などの環境を人工的に制御して、屋内で植物を栽培する施設です。普段は非公開ですが「コスモス祭」（学園祭）の期間中、研究設備が一般公開されていたので、多摩・田園の会員を誘って 3 人で行ってきました。

玉川大学の研究施設「Future Sci. Tech Lab」は、LED を使った無農薬の水耕栽培に取り組んできました。現在はその成果をもとに、大学内の「Sci. Tech Farm（LED 農園®）」でレタスなどの葉物野菜を栽培しています。

見学した施設では、LED を太陽の代わりに使い、栄養分を溶かし込んだ水で育てる完全な無農薬栽培が行われており、イチゴ、イネ、ニチニチソウなどが試験栽培されていました。すでに、リーフレタスなどの葉物野菜は栽培方法が確立して、生産段階に移行しているとのことです。天候に左右されないため、年間を通じて安定供給できる点も魅力です。

興味深かったのは、光の色による味や栄養の変化です。青い光を当てると植物がストレスを感じ、ビタミンやポリフェノールといった抗酸化成分を多く作り出すそうです。一方、赤い光を当てると葉が大きく育ち、甘みが増すとのこと。LED 光のバランスを細かく調整することで、風味や栄養を自在にコントロールできると聞き「光のレシピ」という印象を受けました。（写真右：赤、青、赤＋青の 3 種類の光で生育の違いを比較する実験中）

無農薬・クリーンルーム栽培のため、洗わずにそのままサラダで食べられるのも特長です。最近では遠赤色光や紫外線を使った研究も進められているとのことでした。

栽培された作物は、玉川ブランド「夢菜®」として販売されています。早速、玉川学園駅前の「Campus Shop」で買ってきました。

私が行った時は、普通の「フリルレタス」は売り切れ。「玉川レタス プレミアムフリル」が残っていました。人気なんですね。

見た目は緑色が濃いようです。ドレッシングをつけずに、そのまま口に入れると、味が濃くて、レタス特有の苦みも少なく、シャキシャキ感が強いように感じました。私は、毎日生野菜を皿に一杯、食べています。毎日となると『プレミアムフリル』はちょっと高いですが、普通の「フリルレタス」なら 170 円程度で購入できます。皆さんもいかがですか？

参考：https://www.tamagawa.jp/education/dream_uni/detail_13544.html

じゃお湘南

じゃお湘南　秋の歴史散策

じゃおクラブ湘南は、今年が創立 30 周年にあたります。湘南の会員の多くの方は、農園の魅力に引かれて 60 歳代で入会されたと思います。緑に触れて作物を育てる作業は心身共に良い効果があると思っています。私も 60 歳代で入会して農園を楽しませて頂きました。しかし、70 歳代の後半になりますと農園作業に体がついていかなく 8 年程前に農園はリタイアしました。

その後は、歴史研究会や江の島・藤沢ガイドクラブ（以下、ガイドクラブ）に所属して歴史散策を楽しんでいます。これらを通じて、藤沢市民となって 45 年にもなるのに、藤沢について知らなかったことが沢山あることを再認識しています。ガイドクラブでは、約 7～8km を 6 時間程度で歩く一日コースと、約 4～5km を 3 時間程度で歩く半日コースがあります。私も最近は足と体力の衰えから、専ら半日コースの案内を行って来ました。

昔は元気だった湘南のメンバーの中にも、最近は農園を止めたという人が増えて来たようです。

農園の中核であった M さんも農園の世話役を少し若い？人に任せたそうなので、無理の無い歴史散策の世話役をお願いしたところ賛同・了解して頂きました。

昨年の春は雨で中止しましたが、10 月 29 日には、小雨の中を江戸時代の藤沢宿を案内させて頂きました。原則として春と秋の二回の適当なコース選びは一人では難しいので、誼（よしみ）のあるガイドクラブに依頼することにしました。今年度から正式に湘南の「歴史散策」と称し、6 月 10 日には江の島のトンボロを歩いて渡りました。参加して頂いた方からは大変好評を得ました。

湘南が行っている農園の近くには、歴史的に由緒の有る宇都母知神社があります。更に 3 年前に遠藤笹窪谷（やと）公園が開設されました。直ぐ近くの慶応大学湘南藤沢キャンパス（略称 SFC）は、縄文から弥生時代の遺跡が残る森を出来るだけ保存して、市民の散策にも利用出来ると云う前提で、1990 年に開校しました。慶応大学看護医療学部前を出発して、遠藤笹窪谷、宇都母知神社、縄文時代の炉穴、竪穴住居跡等と最後は慶応大学内の食堂で反省会・喫茶と云うコースの散策を 10 月 30 日に実施することが出来ました。比較的平坦なコースで、天気にも恵まれて湘南の最長老の S さんにも完歩して頂けました。

募集途中は、参加希望者が少なかったのですが、M さんから湘南以外にも声を掛けて頂いたところ、多摩・田園、県央、ベイサイドからも参加をして頂き、当初予定の 10 名を上回る 15 名になりました。

最後は、湘南台の鳥貴族での反省会で多いに盛り上がりました。

今後もガイドクラブと相談しながら無理の無いコースの散策を計画したいと考えています。鎌倉から小田原までの間で行って見たいと思われる所が有ればお知らせください。

（じゃお湘南　新藤　正則　記・多摩・田園　竹内　純一　写真）

写真：慶応大学医療看護学部前の「紅葉のかつら」の樹の前にて

じゃおグリークラブの新しい出発

2012 年に平均年齢は 70 歳代半ばで発足した「じゃおグリークラブ」は 14 年目に入りました。発足当時は、「みなとみらい大ホール」の舞台に立って歌うことを目標にして、2 年目の 2014 年の秋に「ヴィサン・ジョイントコーラス・フェスティバル（以下、ヴィサン）」で「みなとみらい大ホール」の舞台に立つことが出来ました。以来、コロナの影響で中断しましたが、平均年齢が 80 歳を超えた昨年（2024 年 11 月）のヴィサンで 8 回目の大ホールの舞台で歌うことが出来ました。コロナ明けの 2023 年に 4 年振りにヴィサンに出演した時に、みなとみらい線の大混雑に驚かされてしまいました。昨年は更に人が増えた様で、80 歳を超えて杖を持った老人が乗る電車では無いことを感じさせられましたが、翌年度もヴィサンに出演するための練習は始まっています。丁度その矢先に練習に使用している明治市民センターから 2024 年 10 月に開催予定の「明治地区ふるさとまつり」に出演して欲しいとの依頼がありました。永らくお世話になっている市民センターからの要望に応えないわけにも行かず出演することになりました。ヴィサンが 11 月ですから、その前の舞台練習にもなります。

2024 年は、10 月 26 日に「明治地区ふるさとまつり」に出演しました。「お祭り」ですから私服姿で気軽に歌うことが出来ました。そして 11 月 14 日には 8 回目の「みなとみらい大ホール」でのヴィサンで歌うことが出来て 6 回目のエフォル賞を受賞しました。一方でグリーのメンバーも出入りはありました

が、徐々に減りつつあります。矢張り地元の合唱祭に出演しての PR も必要との意見もありました。藤沢地区でも毎年 7 月に藤沢市民合唱祭（以下、合唱祭）が開催されていることは知っていて何度か聴きに行ったことがあります。

第42回 ふじさわ合唱祭 令和7年7月27日 於/藤沢市民会館大ホール Photo：スタッフ・テス

調べて見ますと、藤沢市民合唱連盟は 40 年前から藤沢市民会館で合唱祭を開催しています。藤沢市民会館は、昭和 43 年（1968 年）に建設され老朽化していて、市民会館での合唱祭は 2025 年の 42 回目が最後とのことでした。参加費はヴィサンに比べて大幅に安く、先生に車でおいで頂くのにも便利と言うことで 7 月 27 日の合唱祭に出演することになりました。ヴィサンへの心残りはありますが、メンバーも減って来ている現状では、藤沢地区での出演に絞って、チラシも作成して積極的にメンバーを募集する方針で臨みました。

初めての出演の合唱祭ですが、中島みゆきの「地上の星」と「オーシャンゼリゼ」の 2 曲を歌い賞はありませんが、フランス国旗をイメージした 3 色のポロシャツ姿も講評の先生方に通じた様で非常に良い講評を頂きました。

この勢いで 11 月 9 日の「明治地区ふるさとまつり」に臨み、昨年のヴィサンで歌った「ふるさとは今も変わらず」と、合唱祭で歌った 2 曲を合わせて 3 曲を披露しました。身振り手振りを付けて歌った最後の「オーシャンゼリゼ」はノリが良かったのでしょうか！　聞きに来て頂いたメンバーのお孫さんが家に帰ってからも「オーシャンゼリゼ！」を口ずさんでいたとのことでした。
来年も楽しく歌いたいと思っています。

（じゃお湘南　新藤 正則　記・写真提供　亀丸 広司氏の知人および藤沢市合唱連盟）

じゃお県央

えびなボランティアフェスタ 2025 に参加!!

11 月 9 日（日）10 時から 16 時まで、海老名市総合福祉会館主催によるボランティアフェスタに参加しました。

本フェスタは、海老名市文化会館・海老名市立図書館に加え小田急電鉄が実施する「めぐみ町フェスタ」の一部として開催されたものです。じゃお県央は海老名市総合福祉会館 2 階会議室にてワークショップ「万華鏡を作ろう！」を担当しました。

当日は 9 時にメンバー8 名が集合し会場の設営およびワークショップで使用する万華鏡の材料、手順の最終確認を行いました。10 時の開場とともにワークショップを開始し、対面で作り方を説明しながら進めました。参加者は親子連れが楽しみ、完成した万華鏡を見て「世界に一つだけのきれいな作品ができた」と喜ぶ姿が見られました。

子どもたちが集中して作業し、完成した万華鏡を嬉しそうに眺める姿がとても微笑ましく、改めて参加の意義を感じました。また、スムーズな運営ができたのは、メンバーの協力のおかげであり、ご協力いただいた皆さんに深く感謝いたします。なお成果として雨にもかかわらず、終了時刻の 30 分前に 17 組で 21 個の実績でした。

この活動は、じゃお県央にとって大事なボランティア活動の一つであり、地域との交流の場として大変有意義なものとなりました。

今回の経験を活かし、今後も地域の方々に喜んでいただける活動を継続できればと思っております。

（県央　大場　幸雄　記・写真）

2025 年 11 月定例そば打ち開催報告

日時：2025 年 11 月 17 日（月）9 時 30 分から 13 時 30 分
場所：海老名市国分コミセン多目的室

今年最後のそば打ちを海老名市国分コミセンで開催しました。
今回はじゃお県央地区に 10 月に入会して初参加の白鷹さん、ご指導くださる多摩・田園の浅野さんを含め 8 名の参加者でした。

9 時半に開館、エプロン・バンダナを身に着け、手洗いして各テーブルにこね鉢・のし板・めん棒を準備してそば打ち開始、二八そばを全員で打ちました。浅野さんが各テーブルを回りながらご指導くださいました。特に初参加の白鷹さんには親切丁寧に教えていただきました。

新たにのし板を製作して使用したところ板目が荒く打ち粉を多く撒いても板にくっ付いて上手く延ばすのに苦労しました。次回までにペーパーやすりで削り修理する事にしました。

メンバーも定着してきています。回を重ねるごとに手順も良くなりスムーズに作業を進める事ができるようになったと感じました。12 時前には試食が出来るくらいの早さです。

今回、浅野さんが特製のそばつゆを作ってきてくださいました。これ迄の市販品とは違い出汁がしっかり効いたつゆは、市販品とは一線を画す美味しさで、皆大満足でした。

今年最後（6 回目）のそば打ちを終えました、まだまだ上達は難しいです、特に「そば切り」作業、そば打ちの技術向上には終わりはありません。来年も頑張りましょう。

参加者：　鈴木（寿）・坂井・大場・加藤・美濃部・白鷹・福山・浅野（多摩・田園）計 8 名
次回：　2026 年 1 月 19 日（月）9：30〜13：00

（記・福山　信二　写真・福山　信二、加藤　満）

じゃおベイサイド

残念！　ふくしまつり

11 日月 6 日（日）恒例の福祉クラブ生協の「ふくしまつり」が開催されました。ベイサイドも得意の手作りの子供の遊び道具の工作で万華鏡・ＣＤこま・紙トンボ作りで参加しました。

今回は例年行われている会場の公園が改装工事のために使用出来ず別の会場になりました。前日まで天候不順で心配されましたが、晴れました。

我が方ベテランの精鋭 4 人。よーし準備万端整った。紙トンボどんどん飛ばすぞ。張り切って待ち受けました。公園の前の通りは幹線道路の 16 号線です。でもバスが走っていません。どうして？

バス路線は手前の駅から次の駅までの間迂回して裏通りを走っているのです。そんなに渋滞する通りではないと思うんですがね。また再開発遅れているのか、商店が無くて空き地が目立ちます。人通りが少なく子供連れがいないんです。

気温が上がり始めて飾り付けた風船がパンパン割れ始めました。手持ち部沙汰です。
閑古鳥も鳴きません。何処へ飛んでいったのでしょうか。

やっと来た貴重なお客さん、丁寧に時間をかけて説明して制作に掛かります。気を散らさないように「鋏の使い方上手だね。きれいに出来てる」拍手したりして、もう一つ作らないかな。

今日の結果・万華鏡 2・CD こま 1　惨敗です。来年は元の公園に戻るでしょう。捲土重来を期待しましょう。

万華鏡をのぞいて「わあー　綺麗ー」この歓声を聞きたかったな。

（ベイサイド　率川　清昭　記・土屋　佳一　写真）

二子山回廊ウォーキング

二子山は逗子と葉山の境にあり、東西に並ぶ二つの峰がまるで双子のように見えることから、その名が付けられた山です。標高は上の峰が約 208m、下の峰が約 206m です。

11 月 8 日（土）午前 10 時半、参加者 7 名が JR 横須賀線・東逗子駅に集合し、曇り空のもと沼間小学校裏の登山口へ向かいました。登り始めると、標高 208m とはいえ、急な坂道がしばらく続きました。目的地である上の峰までは約 3.2km を歩き、頂上で昼食をとりました。事前の下見では下の峰まで往復しましたが思ったより時間がかかったため今回はスキップすることにしました。上の峰でゆっくり休憩を取った後、約 1.6km 下って南郷上ノ山公園に辿り着きました。「こんな山間に学校があるのか」と思いながら右手に南郷中学校を眺めつつ県道 311 号を下り、長柄を経て葉山マリーナへ向かう途中、渚橋に到着。そこで大きな珈琲店が目に入り、一休みすることにしました。つい一献傾けてしまったためにここからは徒歩組とバス組に分かれて終点の逗子駅へ向かい流れ解散となりました。

参加者からの一言

二子山　　左「上の峰」

（A 氏）： 楠運平橘正国（くすのきうんぺい・たちばなのまさくに）ら七人の侍が東逗子を出発。二子山山頂を目指し、剣客の面々がひたすら登った。帰路は逗子駅に向かう途中、バスに乗るべきか歩くべきか迷いに迷い、結局渚橋まで歩いたとさ。めでたし、めでたし。

（B 氏）： 私は鎌倉の山道はほとんど歩きました。また大楠山や衣笠山なども何度も歩きましたが、逗子に二子山があるとは知りませんでした。二子山なので二つのこぶがあることを期待しましたが、登山口からはただの山道が始まり、二子山らしい景色は見えませんでした。海抜 200m ちょっととのことで簡単かなと思っていましたが、意外と足が疲れました。頂上は開けていて、展望台からは双眼鏡でスカイツリーが見えたそうです。頂上の反対側にはもう一つのこぶがあるとのことですが、展望も悪く、戻る以外に道がないため、そこから下山しました。するとすぐに二子山のこぶが美しく見えました。下山してから葉山までの道は自動車道路で少し疲れましたが、楽しいハイキングでした。

（C 氏）： ウォーキングをすると翌日、翌々日と足腰の痛みが増してきてマンションの階段を上り下りするのも辛かったのですが、今回はスイスイ歩けています。

（D 氏）： 標高 200m 少しで、ウォーキングには手ごろな山でした。久しぶりのウォーキングで、登り始めはハイペースでしたが、その後はペースを落として会話する余裕もでき、ハイキングらしくなりました。下りの途中、二子山の名の由来である二つの峰が見える場所で記念写真を撮影。下山して出た道路は見覚えのある場所で、葉山へ行くときにいつも通る逗葉道路でした。逗子海岸の「なぎさ橋珈琲」でビールを補給し、逗子駅まで歩き切りました。木々の葉も色づき始め、日ごろの運動不足も解消できた一日でした。

（ベイサイド　土屋　記・諏訪　写真）

じゃお多摩・田園

坂の上の洋館 ― 鳩山会館を訪ねて　11 月グラファーズ撮影会

11 月 5 日、グラファーズのメンバー4 人で文京区音羽の鳩山会館を訪れました。最寄りの東京メトロ有楽町線「護国寺」駅からはスムーズに到着しましたが、正門から受付までが急坂で、息を切らせて上りました。我々高齢者にはなかなかの運動です。

鳩山会館は 1924 年、のちの首相・鳩山一郎氏が建てた英国風の洋館で、設計は岡田信一郎氏。大規模な修復を経て 1996 年から一般公開されています。

まずは庭園の撮影から始めました。ちょうど秋バラの季節で、よく手入れされた庭には赤・白・ピンクなど様々な花が見事に咲いていました。この日は曇り空でしたが、鋭い影が出ない分、花の撮影には柔らかな光が最適でした。

建物は外観もさることながら、家具や照明、食器などの調度品にも往時の気品が残っており、展示では政治一家として知られる鳩山家四代の歩みが紹介されていました。日本の近代政治と深くかかわってきた家族の歴史を身近に感じます。

内部で印象的だったのは、小川三知氏によるステンドグラス。特に踊り場にある鳩や法隆寺五重塔を描いた和風の意匠が洋館の雰囲気に不思議と調和していました。（写真左）館内の随所に鳩のモチーフがあしらわれており、遊び心を感じます。

撮影を終えた後は恒例の反省会（という名の昼飲み）です。周囲に店が見当たらず、少し歩いた末に町中華を発見。隣の若い女性が食べていた日替わり定食を見て、「あれが良さそう」と誰かが言うと、笑顔で「これ、日替わりです」と教えてくれました。ご飯抜きの定食に餃子とビールを添え、おしゃべりが続きました。短時間の撮影会でしたが、仲間と語り合いながら秋の一日を過ごすことができました。

（ベイサイド　藤井　直敏　記・写真［バラ］）
（多摩・田園　片山　隆行　写真［洋館とステンドグラス］）